



26  
春闘

申17号 2026年度賃金引上げ等に関する申し入れ  
申18号 2026年度夏季手当に関する申し入れ

第3回交渉  
その2

## 会社が示した令和8年度の新賃金

■職務能力給引上げ 20,960円 (5.72%) と各種手当等の引上げ 22,165円 (5.64%) であり、合計 43,125円 (11.36%) の賃金引上げである。

## JR東労組が訴えた内容(要旨)

- ベア一律 18,000円要求に対し、平均 3,271円 で1%にも届かない低額であり、格差がつく回答だ。エルダー・セカンドキャリアスタッフ組合員は 1,500円。昇給は殆どの社員がカットとなる想定。夏季手当については前年からたった 0.1ヶ月のプラス。「職場の奮闘と努力に報いた」回答とは言えず「要求や職場の声と現実」から到底納得できない。
- 団体交渉では、①好調な業績は職場一丸となって取り組んだ成果であり、組合員・社員の奮闘と努力を考慮要素とすること②労使で安全を第一とした会社をつくり上げること③物価上昇を踏まえた生活実感も考慮要素にすることなどの認識一致を図り、職場の声に対しても会社は受け止めると回答した。
- 会社は、①制度改正とベアや夏季手当の性質は異なるとしつつも、「新賃金・夏季手当について」の通知のスタンスを変えることなく「職務能力給が1万円以上増額される」「月例賃金も10%引きあがる」と繰り返し回答し、さらに「財布は一つである」とし「新人事・賃金制度での処遇改善」を理由に賃金を抑制しようとする姿勢②過去最高の働き度の中で、単体の営業収益は過去最高であるにも関わらず、25億円減の営業利益を重視する姿勢③ベースアップは職責を重視する姿勢④能力昇給導入により世代によっては賃金が抑制される断面がある現実に対して、65歳まで賃金は上がるので一断面で見るとはいいなど、会社の考えを繰り返し述べた。
- 第2回交渉における会社回答は、今までのような賃上げ議論ではなく、人事・賃金制度の議論を繰り返すかのような交渉となったことに違和感と危機感を持ち、職場の声と現実を訴え現場第一の姿勢で回答することを強く求めた。
- 要求した回答期日や大手の集中回答日を大幅に前倒してまで本日示された回答は、2月2日付の通知のスタンスありき、会社のスケジュールありきの現場第一の姿勢とはほど遠く、春闘破壊・労働組合軽視の姿勢であるのではと受け止めざるを得ない。
- 2月2日付の通知の内容に対し、「ベアと制度は別物」「騙されてはいけない」と多くの組合員から声があげられている。また、輸送障害や雪害対応などで、旅客からの厳しい言葉を受けながら、慣れない旅客案内など職責やシステムを越えて担い、輸送を確保するなど、職場は要員不足の中、日々の業務や異常時対応、施策実施に向けた対応に奮闘し続けてきた。この現実の中で、示された回答を受ける組合員は「啞然」「愕然」とし、「納得いかない」との不満や不信の声があげられると感じてならない。会社は、JR東労組が把握している現実と本音の声に真摯に向き合うべきだ。
- 示された回答は私たちの要求や趣旨から大きく乖離した回答であり、「職場の奮闘と努力に報いた」回答と言えず、経営側と現場の溝がより鮮明になったとの受け止めた。JR東日本グループや交通運輸産業の賃上げを牽引できるとは感じない。
- 職場の奮闘と努力が報われずモチベーション向上が図られず、今後の生活設計や賃金引上げ、労使交渉へ影響を及ぼしかねない回答だ。

この会社回答を前提としたら、来年以降のベースアップも抑制されることになる！  
会社回答に騙されずにたたかい抜こう！